

KTRサポーターズミーティング 概要報告

と き:平成21年3月28日(土)午後1時30分から3時30分まで

と ころ:宮津ターミナルセンター1階多目的ルーム

参 加:KTRサポーター 9名 KTR1名 京都府、事務局ほか6名 合計16名

提案・意見

【利用促進の企画】

◇懐かしの客車列車をKTR線内で運行しては。

◇ローカル鉄道の目玉は、やはり特徴的な列車にある、と思う。テレビで特集を組んでもらえるようなインパクトのある列車の運行をしては。

◇夕方から夜間の便で、夜間列車として、車内の電気を消して夜景を楽しむ列車を運行してはどうか。

◇鉄道第3セクターサミットを開催し、保有する車両が一同に集まる企画をしては。

◇KTR関連では、探せば毎年なにかの周年記念となる。毎年周年事業を開催しては。

◇「天国はまだ遠く」の映画では、KTRのことが出てくる。今は車体にラッピングをしているが、次はDVD発売に合わせて何かイベントをしてはどうか。

◇利用客にとって駅弁はたのしみの一つである。最近では駅弁は駅で買うよりスーパーで買うことのほうが多いが、期間限定でも京丹後の「さわら」や宮津の「とりがい」の駅弁を発売してはどうか。

◇定額給付金の支給に合わせて、1万2千円のツアーを企画しては。

◇ICOCAのようなICカードを導入しては。

◇サポーターズクラブでポイントカードをしているが、これを発展させて、マイレージカードを発行すれば。ポイントごとの商品は、KTR関連グッズを作成すれば。

◇丹海との共通切符は画期的だが、沿線住民にとってのメリットがあまりない。丹海との運賃一元化はできないか。乗り継ぐ初乗り運賃が割引されると、お得感が高い。

【PR】

◇京都駅等の観光案内所に社員を配置し、丹後やKTRの案内をしては。

◇以前、KBS京都でサイコロ鉄道を旅する番組があり、宮福線は放映されたことがある。残念ながら宮津線は放映されていない。景色のよい宮津線を取り上げてもらうよう働きかけを。

◇昨日、KTR駅物語のシンポジウムがあった。テレビで放映してもらうようにならないか。

◇定期利用を増やすには、行政機関含めて沿線の事業所へのチラシ配布等をもっとすべき。

【車両、ダイヤの改善】

◇座席の回転に際し、回転のやり方がわかりにくいので、何らかの表示ができないか。

◇特急2両編成で、2両ともにトイレがないことがある。車両更新のときには、トイレの設置をお願いしたい。また、これからの車両は、すべてノンステップにすべきと思う。

◇朝の通学通勤便で、従来の2両満員の列車が1両編成になった。(豊岡 6:39→西舞鶴 8:41)利用するには、必ず立たなくてはならない。通勤時間帯に便数が増えたのはありがたいが、この便を2両編成に戻してほしい。

【駅舎の活性化、改善策】

◇KTR駅舎は、それぞれ特徴的な形であり、それぞれイメージをもって建設がされたと思う。駅舎そのものをパンフレットへの掲載やパネル展示等により外向けにPRすべき。

◇ホーム発着時に「プルーブルー」というが、他の鉄道であれば、その地域にゆかりのあるメロディにしているところがある。例えば、宮津駅であれば「宮津おどり」のメロディなどにすればどうか。

◇JR引き込み駅(福知山駅、西舞鶴駅、豊岡駅)の券売機上にある料金表等の案内表示の字が小さい。高齢化社会になっているので、字を大きくする等の対策が必要では。また、はじめて丹後にくるKTR利用客は地名等が分かりにくいので表示方法にも工夫が必要では。

◇到着時に駅名を聞いただけで、その地の地域情報がわからないので、駅名にサブタイトル的な愛称をつけては。

◇野田川駅では実施されているが、全駅舎において駅舎のフリースペースを利用して、鉄道グッズを展示すれば。

◇KTRは、乗り遅れたら1時間程度待たなくてはならない。待合室に本を置くとか、駅舎に展示スペースを作るとか、時間をつぶせるような工夫を。

【マナーアップ】

◇通勤通学時、高校生、大人とも、携帯電話を目覚まし代わりに使っており、不快。

◇携帯電話は、ペースメーカー使用者に影響がある。少なくとも高齢者、障害者専用シートでは、携帯電話の使用は厳禁と強く訴えないといけないのでは。

◇乗車マナー違反への対策は、しつこいほど自動アナウンスを入れること。車掌やアテンダントが注意することは難しい。

【安全対策】

◇先日の強風時にワンマンの列車の運転手がパニックになり、客として不安であった。そういった場合は、ツーマンにする等の対策を講じてほしい。

◇災害時や大雨、大雪時等に、京都駅等でKTR情報が得られない。ITの時代であるので、インターネットを使いJRとの連絡連携体制を強化できないか。

【会社経営】

◇沿線の人口が減っていく中で、沿線の利用は延びることはないと考え。そんな中で、最低限の安全は確保して、もっと会社のスリム化を図っていくべきでは。